

# 平成26年度 第15回政策推進会議報告

日時 10月20日 9時27分～10時17分

場所 4-1会議室

出席者 12人

## 1 尼崎市住民基本台帳事務 全項目評価書にかかる特定個人情報保護評価について

市民協働局企画管理課長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 全項目評価書は、パブリックコメント実施後、第三者点検を受けるというのが一連の流れである。今のところ、現状の事務をマイナンバーシステムに置き換えるという段階だが、次の段階に入り、今までにない利用の仕方をしていく際には、かなり慎重な審議を進めることになる。

## 2 尼崎市国民健康保険・国民年金事務 全項目評価書(素案)に対する市民意見公募手続の実施について

市民協働局企画管理課長から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

(市長) 住民基本台帳事務では、第三者点検での意見により、「主務省令(パブリックコメント)公表されず」を「主務省令未定」に改めたが、国民健康保険・国民年金事務においても同じような表現が出てくるのか。

国民健康保険・国民年金事務においてはそのような表現はない。住民基本台帳は様々な制度に影響を与えるが、国民健康保険・国民年金事務は単独のデータであり、他に影響を与えるものがなく、省令の影響を受けるものはない。

(市長) パブリックコメントでは意見が出にくいかと思うが、第三者点検による意見や他都市とのやり取りで情報収集に努めるなど、ぬかりなくやってほしい。

## 3 尼崎市子ども・子育て支援事業計画(素案)に対する市民意見公募手続の実施について

子ども青少年局長から資料に基づき報告。

(市長) 私から2点意見がある。まず1点目は、素案の17ページにこれまでの子育て支援施策の実施状況が載っているが、そのうち、延長保育事業についてである。平成26年度の最終目標がかなり大きな数値になっているのに対し、平成22～25年度の実績値が小さくなっている。これはサービスがニーズに追いついていないというわけではなく、思ったほど延長保育の利用がないという認識でいいか。

延長保育事業は全ての保育所・保育園で実施しており、保護者が望めば必ず延長保育をしているので、供給ほどニーズが高くなかったものと考えられる。

(市長) 47ページの延長保育事業の今後の見込みを見ても、ニーズ調査では1千を超える数字

が出ているが、実績値は400～500程度で推移している。これに対し、児童ホームでは、延長保育事業と同じように目標値と実績値に乖離が生じているが、こちらは実際にニーズが高いにもかかわらずサービスの供給が追いついていないもので、延長保育事業とは意味が違う。本文にはそういった記載があるが、一見すると延長保育事業と児童ホームが同じように見えてしまうのが気になる。延長保育事業については、十分供給がなされていることをわかりやすく表現してほしい。

延長保育事業と一時預かり事業の希望が多いのが特徴で、現場でそれらの依頼を断っているような実態は一切ない。

(市長)ただ、ニーズ調査の段階でニーズが高かったにもかかわらず実際には利用されないとなれば、それは料金等も含め、サービスに使いにくさがあるという可能性もある。なぜこれほど乖離が生じるのかという点について、気をつけてチェックしてほしい。

次に、2点目は利用者支援についてである。これまで、尼崎市こども青少年未来対策本部においても総合的な利用者支援が課題となってきた。今回の利用者支援は、子ども・子育て支援新制度に特化して、本当に必要な個別ニーズに対応することで待機児童を無くするという要素が強いが、素案の46ページにあるように、本庁で体制を整えるのはもちろんのこと、平成29年度からは地域連携と併せた利用者支援について、あと2箇所追加していくことになっている。これは、つどいの広場等に新しく利用者支援用の人員を追加配置するイメージか。つどいの広場とも協議を続けていかなければならないが、今後、市からの情報提供のあり方などを検討し、少なくとも平成29年度までには地域に2箇所、民間の力を借りながらつどいの広場を訪れた保護者に対して支援していきたい。

(市長)審議会でも利用者支援に対する意見が出たか。

部会で意見が出た。尼崎市の特性として、地域の任意団体の活動がとても活発であり、また、意識も高いので、それを活用しない手は無いという意見だ。また、国の利用者支援に対する考え方がかなり変わってきており、もともとは情報提供やマッチングだけでいいというものだったが、それに加えて、地域の団体の力を利用して関係機関をつなぐというのも想定されている。そういった取組に対応できるようなレベルの高い団体や人材があれば、今後活用していきたい。

(市長)現在、つどいの広場はすこやかプラザも含めると市内に11箇所あり、事業者の力量に多少の差はあると思うが、つどいの広場全体のレベルの底上げをやっていくのが望ましい。

2箇所だけに絞るかどうかは、状況を見ながら議論の余地があると思う。

事業者の意向や力量、人材といった観点から、事業者の意見も聞きながら、とりあえず2箇所はいけるという見込みだ。広場によってレベルに差が生じることもあるかと思うが、簡単な利用者支援情報の提供やマッチングなどは、市の体制さえ整えば全ての広場で実施できるかと思う。

(市長)特定の広場だけが利用者支援を実施するのではなく、全ての広場で実施してほしい。

というのも、先日つどいの広場の見学に行ったが、スタッフがいかにも情報を持って保護者に提供できるかが大事だと痛感した。研修体制の構築など、つどいの広場全体の底上げを検討してほしい。

・「尼崎市子ども・子育て支援事業計画(素案)の概要」の計画の進行管理の部分で、「尼崎市

子ども・子育て審議会において、点検・評価を行い、結果を公表する。」とあり、行政そのものが点検するのではなく、審議会に判断をゆだねているような印象がある。そもそも審議会というのは、点検・評価のための組織ではないと感じている。行政の主体性がなかなか見えず、もっと市として一定の考え方を持たなければならないのではないかと。

資料の表現は言葉足らずになっている。当然、行政側のチェックも行っているが、この事業計画の策定にあたっては、第三者のいろんな意見を十分に取り入れるという趣旨があり、審議会を活用している。もちろん、行政が主体になって進めている。

(市長) 現在、尼崎市子どもの育ち支援条例に基づき、尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画について、まず市で内部評価を行い、審議会に外部評価をしていただくという仕組みができており、同様の仕組みを想定しての表現かと思うが、そもそも次世代育成支援対策推進行動計画と尼崎市子ども・子育て支援事業計画の内容が重複しており、前者の方が範囲が広いが、ここはどう扱うのか。

本計画が次世代育成支援対策推進行動計画の13事業と重複しているので、本計画を次世代育成支援対策推進行動計画に取り込んでいくことになる。

(市長) 尼崎市こども青少年未来対策本部においても、市の内部評価と施策評価との整合性が課題であったが、市の内部評価を施策評価に統一していく方向で進めており、全庁的にも影響が出てくるものがあるかと思うので、関係局にはよろしくお願ひしたい。

#### 4 その他

- ・企画財政局長から、尼崎市総合文化センター2階にオープンしたカフェレストランについて報告。
- ・経済環境局長から、尼崎市中小企業センター1階にオープンしたレストランについて報告。
- ・経済環境局長から、第30回尼崎市農業祭について説明。
- ・経済環境局長から、高齢者の就業機会の確保・拡大に向けたシルバー人材センターの活用について説明。

以 上